

平成25年度 第5回 砂川市地域公共交通会議

日時：平成26年1月29日 午後2時から

場所：砂川市役所 大会議室

出席者：

区分	所属・役職	氏名	備考
会長 (1号委員)	砂川市 副市長	角丸 誠一	
副会長 (2号委員)	北海道運輸局札幌運輸支局 主席運輸企画専門官	工藤 正弘	随行：飛澤 麻希
3号委員	北海道空知総合振興局 地域政策課長	池田 和明	
4号委員	北海道中央バス(株) 空知事業部業務係長	尾形 崇士	
	砂川北星ハイヤー(株) 常務取締役	天保 和雄	
	ふじ観光(株) 代表取締役	出村 省三	代理：坪田 正行
	三星ハイヤー(株) 営業部長	梅野 恒夫	
5号委員	札幌地区バス協会 (社)北海道バス協会常務理事	今 武	
監事 (7号委員)	砂川市町内会連合会 副会長	高村 雄渾	
	砂川市社会福祉協議会 副会長	尾崎 隆男	
7号委員	砂川市老人クラブ連合会 会長	鈴木 日出男	
8号委員	砂川市 総務部長	湯浅 克己	
	砂川市 市民部長	高橋 豊	
	砂川市 建設部長	金田 芳一	
9号委員	北海道開発局札幌開発建設部 滝川道路事務所所長	山崎 達哉	代理：斉藤 敏幸
	北海道空知総合振興局 札幌建設管理部滝川出張所所長	渡辺 富雄	
	北海道札幌方面砂川警察署 交通課長	山本 克己	

欠席者：

区分	所属・役職	氏名	備考
6号委員	北海道地方交通運輸産業 労働組合協議会 副議長	阿部 敏彦	

事務局：

区分	所属・役職	氏名
事務局長	砂川市政策調整課長	熊崎 一弘
事務局	砂川市政策調整課長補佐兼企画調整係長	畠山 秀樹
	砂川市政策調整課企画調整係主任	米谷 和敏

委託業者：

区分	所属・役職	氏名
コンサル	日本データサービス(株) 次長	東本 靖史
	日本データサービス(株) 課長	源野 雄輔
	日本データサービス(株) 技師	斎藤 優太

1. 開会

事務局長

2. 挨拶

→ 会長より会議を代表しあいさつをした。

会 長： 皆様、ご苦労さまでございます。新年を迎えましてなにかとご多忙の中、地域公共交通会議にご出席を頂きまして、誠にありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。本日は、第5回目の地域公共交通会議となりますが、昨年、11月に開催致しました第4回地域公共交通会議では、9月の実証調査運行の結果や利用者の要望について報告を致しました。その後、委員のご意見を頂き、反映できるものは反映した形で来月2月から予定しております実証調査運行を実施することとなりました。検討に資する事項に関しては、引き続き、検討をして参ります。来月2月の実証調査運行の結果が出ないと生活交通ネットワーク計画が策定できないところでございますが、スケジュールの関係から、計画構成の項目や目標を達成するために行う事業や取組みについて、本日はご協議を頂き、計画書の構成内容について確認して参りたいと思います。前回の会議で説明致しましたが、生活交通ネットワーク計画は、3か年の計画であり、毎年評価をしながら、改善を図りつつ、3年計画がスライドしていくというものでございます。現段階で、この計画での選択肢は本格運行を実施するか、あるいは、時期尚早とするのか。実施の場合は、コミュニティバスを運行するのか、乗合タクシーを運行するのかを引き続き検討していく、この2方向がございます。その結論については、2月の実証調査運行の結果を受けて、判断することになります。本日は、この生活交通ネットワーク計画の構成内容について、皆さま方からのご意見を受けたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

3. 報告事項

(1) 実証調査運行の開始について

→ 事務局より議案、資料1、資料2、資料3に基づき説明した。

【質疑応答】

なし

4. 協議事項

(1) 砂川市生活交通ネットワーク計画素案の検討について

→ コンサルタントより議案別紙、資料4に基づき説明した。

【質疑応答】

会 長： 今回の生活交通ネットワーク計画を大まかに説明致しますと、資料4が生活交通ネットワーク計画の素案を構成する目次となります。1では砂川市の概況、2ではこれまでにいたしました各種調査結果をお示しして参ります。これらを受けて、砂川市の問題・課題を浮き彫りにし、計画を策定して参ります。

また、別紙の5ページでは計画の目標、目標達成のための事業や取組みを示していますので、本日の会議ではこの部分に関して、ご協議頂ければと思います。まず、砂川市における交通課題についてご説明致しますと、前段で砂川市を取り巻く現状を整理しております。これらの現状から4つの交通課題が挙げられ、それらを解決するために公共交通体系の再構築を図る必要があるといった流れであります。これらの現状、課題以外に違う視点等がありましたら、ご発言のほどよろしくお願い致します。

委 員： 2点ほど確認します。まず、交通空白地域の設定根拠を教えてくださいませんか。

また、バス乗降調査結果についてですが、滝川芦別線は滝川ターミナルから出発するのか、それとも芦別から出発するのか教えてくださいませんか。この調査結果をみると、滝川ターミナルが終発点に思えるがどうでしょうか。

事務局： 交通空白地帯については、国道、道道には路線バスが運行していますので、さほど多くはありませんが、国道や道道から離れた住宅地域という考え方で整理しています。

また、滝芦線の関係ですが、バス乗降調査に関しては、砂川市内を運行する区域についての要望等を調査したものとなっており、調査を実施する関係上、調査員の乗り継ぎ等の都合で滝川ターミナルを終発点として実施しております。この調査日に関しては、たまたま滝川ターミナル出発・到着の際に、乗降客がいなかった結果となっています。

委 員： 滝川芦別線は砂川市内を運行しているのでしょうか。

事務局： 芦別市を出発して滝川市を經由し、砂川市立病院まで運行しております。

委 員： 富平地区は經由していないのでしょうか。

事務局： 国道38号線を運行しており、空知太地区を運行しております。

委 員： 9月の実証調査運行では、あまり利用者がいなかったようですが、利便性が悪いことや運賃が高いことが原因ではないのでしょうか。また、時刻が利用目的と合っていないと感じます。市立病院まで行く人は、8時頃までに市立病院に着きたいという要望があります。そのような人が市立病院まで行くのに、長い乗車時間を耐えるのは厳しいと思いますので、朝一の便に関しては、商業施設によらずに、直接市立病院まで行くような運行体系はできないのでしょうか。

事務局： 9月の実証調査運行の利用者が少なかった原因についてのご意見は受け止めさせていただきます。また、朝一便に関するご意見ですが、市立病院は、原則8時15分が開院となることから、北ルート①で8時21分、北ルート②で8時19分に市立病院に到着する時間設定とさせていただきます。停留所の関係については、ご指摘頂いた通り、朝は開店していない商業施設がありますが、各便で停車する停留所が異なるといった煩雑的な運行は利用者にとって分かりづらいと判断したことから、全停留所に停車することと致しました。

しかし、今後の計画の策定に向けては、頂戴したご意見を踏まえ、検討して参りたいと考えております。

会 長： これらの課題を踏まえ、交通ネットワーク計画を策定していきますが、基本方針として、4つの課題を束ねた基本方針となっています。計画の目標としては、4つを挙げさせて頂いております。これらについて、ご意見・ご質問があればよろしくお願い致します。

【質疑応答】

なし

会 長： 続きまして、ネットワーク計画の中核であります目標を達成するために行う事業や取り組みについての協議に入らせて頂きます。新たな公共交通の導入検討につきましては、2月の実証調査運行の結果を踏まえないと、結論を出せない状況となっています。2月の実証調査運行の結果次第では、コミュニティバスを導入するか、それとも乗合タクシーを導入するか、平成26年度の本格運行は見送るかといったいずれかになってくると思います。これらについて、ご意見・ご質問があればよろしくお願い致します。

【質疑応答】

なし

会 長： 続きまして、交通機関の乗り継ぎによる公共交通の利便性向上についてですが、現在、路線バスがJR砂川駅に接続しておらず、乗り継ぎが不便な状況となっていることから、新たな公共交通を導入した場合に、他の公共交通機関との乗り継ぎの改善を図るという案です。これらについて、ご意見・ご質問があればよろしくお願い致します。

【質疑応答】

なし

会 長： 続きまして、9月の実証調査運行では、商業施設と接続をしておらず不便な状況であったことから、2月の実証調査運行では利用者の利便性向上を目的に、商業施設への接続の改善を図りました。このように接続の改善を図ることで、まちなかのぎわいを創出したいと考えています。これらについて、ご意見・ご質問があればよろしくお願い致します。

【質疑応答】

なし

会 長： 最後に、バス交通の利用促進の検討についてですが、路線バスの問題点を受けてバス停の改善や利用促進に向けた取り組みを検討していくものです。既存の路線バスと新たな公共交通が連携した取り組みを実施していくものです。これらについて、ご意見・ご質問があればよろしくお願い致します。

【質疑応答】

委員： 運行時間については、利用者にとって利便性が高い時間設定となっていると思いますが、既存運行事業者にとって、利用客減といった影響が出てくることが予想されます。しかし、高齢者の交通確保といった観点から考えると、このようなコミュニティバスや乗合タクシーは時代に沿っていると思います。ただ、今回の実証調査運行では乗降時間を2～3分としておりますが短い気がします。

事務局： 今回の実証調査運行を行なうにあたり、地域説明会を行っており、そのようなご意見も伺っていますが、ある程度時間を設定しなければ、運行時間を決定することができないため、このような時間を設定させて頂いております。ただし、運行事業者には早くに停留所に着くことはあっても、時刻表よりも早く出発することがないようにと伝えています。

委員： 本格運行を行う際、中央バスが運行するのでしょうか。

事務局： 2月の実証調査運行の事業者に関しては、事務局内で協議をして決定致しました。ただ、本格運行に向けては、交通事業者が運行できるのかどうかについて検討を進めなければならないと、市内を運行する交通事業者と協議をしたいと考えています。

会長： 今後は計画書の素案を作成した段階で、ご協議をして頂きたいと考えています。全体を通して、ご意見・ご質問があればよろしくお願い致します。

委員： 先ほど、町内会の方のご発言で、朝一の便は商業施設を飛ばして運行してはどうかとありましたが、実際の利用者のご意見は大切するのが重要だと考えています。もう一つは、バス運行への補助金の増加がありますが、コミュニティバスや乗合タクシーの運賃の検討も必要ではないでしょうか。また、バスを維持するために、運賃以外の負担を住民にもしてもらわなければならないでしょうか。

事務局： 他市町村の計画を見ると地域負担をしている事例もありますが、砂川市の実情を考えますと、今すぐに実行をするのは難しいので、今後検討させて頂きます。

委員： 砂川市のバス乗降調査の結果ですが、どのようなデータを分析したのでしょうか。

事務局： 平日と休日の一日の動きを見たものです。利用者0人という結果は、あくまで、調査日において、利用者がいなかったというものです。

会長： このデータは調査日一日のデータであり、全ての結果ではありません。

委員： この結果をみると、まちづくりセンター等の公的な施設も0人ですが、イベント等で変動するのではないのでしょうか。

事務局： ご指摘の通り、0人だからいないという議論にはならないと思います。

5. その他

→ 事務局より次回協議会の日程について説明した。

事務局： その他ということでお知らせします。次回の会議の日程についてですが、2月下旬の開催を予定しております。また、次回の会議では引き続き生活交通ネットワーク計画素案についての協議を考えています。会議の日程が決まりましたら、ご案内致しますのでよろしくお願い致します。

【質疑応答】

なし

6. 閉会

会長